ソフトウェア関連の間接侵害判例

1. 版下デザイン事件(アッセ対マイクロソフト事件)

(東京地判平成12年7月18日 平成11(ワ)1346)

原告: 版下デザイン装置及び方法についてのソフトウェア関連発明の特許権者

被告: 「ワードアート」プログラムを含む記録媒体の製造・販売者

(請求の趣旨) 損害賠償

(争点) 被告製品は直接侵害又は間接侵害を構成するか。

(判旨) 被告製品は本件発明の構成要件を満たさないため、直接侵害は成立しない。また、本件発明が版下デザイン装置又は版下デザイン作成方法であるのに対し、被告製品は汎用文書処理装置又は汎用文書処理方法であるため、被告製品は本件発明の実施にのみ使用するものとはいえず、したがって、間接侵害も成立しない。

2. 認証システム事件

(大阪地判平成13年2月1日 平成12(ワ)1931)

原告: アクセス制御システム、方法及び認証システム及び装置の特許権者

被告: ソフトウェア及びハードウェア製品群の販売者(それらのいくつかを組み合わせることにより、アクセス制御用認証システムを構成可能となる)

(請求の趣旨) 被告製品の譲渡等及び方法の使用の差止め、被告製品の廃棄

(争点) 被告製品群は直接侵害を構成するか。また、個々の製品(ソフトウェア及びハードウェア)は間接侵害を構成するか。

(判旨) 被告製品群及びその組み合わせにより構成されるシステムは、原告発明の技術的範囲に属さないため、直接侵害は成立しない。被告が提供する個々の製品には、それを組み合わせて構成されるシステムの生産にのみ使用するものが含まれるが、構成されたシステムは原告発明の技術的範囲に属さないため、間接侵害は成立しない。また、被告の製品のうち、システムの構成以外の用途に使用されうるものについては、システムの生産にのみ使用されるものとはいえないため、間接侵害は成立しない。